（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2374100523		
法人名	特定非営利活動法人東海市在宅介護家事援助の会ふれ愛		
事業所名	特定非営利活動法人東海市在宅介護家事援助の会ふれ愛		
所在地	愛知県東海市養父町苅宿31番地の1		
自己評価作成日	平成24年 10 月　1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2374100523-00&PrefCd=23&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5　かえでビル2階
訪問調査日	平成24年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1、理念に基づいて、職員一人ひとりが自覚し、利用者が安心して生活できる支援を目指している
2、利用者が地域の一員として生活が出来るよう、地域との関わりを大切にしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

名鉄常滑線に沿った生活道路に面し、北側は伊勢湾に注ぐ信濃川の小さな流れがある。周りを田畑に囲まれ、近くには知多地域の保健所や神社、公園があり入居者の日常の散歩コースにもなっている。「ここがあなたのうちですよ」の理念のもと職員は一人ひとりが自覚することによって、家庭的な安心した生活が出来るよう支援に努めている。併設されているデイサービスとも交流があり、入居者は自分のやりたいことや居場所を見つけてゆったりと過ごしている。地域との関わりでは保育園との3ヶ月ごとの作品交換会や地元障害施設との関わり、地元行事への参加等様々な形で地域との交流を深めている。同業者との交流にも積極的で、情報を得るとともに改善改革への意欲につなげている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

己	自部外	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここがあなたの家ですよ」という理念を毎朝、申し送り時に理念を唱和することで職員一人一人が自覚し、支援に努めている	入居者との関わりを大切にする理念を職員一人ひとりが自覚し、共有して支援にあたる努力をしている。新人には年2回の新人研修等で理念を踏まえた支援の確認をしている。個人目標を立て、3ヶ月ごとに評価をしながら、より良い支援の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の方の参加、バザー、ボランティア、保育園児との交流会を通じて地域との関わりを持ち交流をしている	運営推進会議に地域の方の参加が有り情報を得ている。保育園との交流を年間行事計画に組み込んだり、事業所主催のバザーでは、地域の障害児や障害者で結成している「親子太鼓」とも交流している。様々な形で地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民、市職員、一般企業の方の見学会の受け入れを行ない認知症介護の理解を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	全利用者家族の参加を促し窓口を広げることに努めている。活動報告、利用者の状況報告を行なうと共に出席者の意見や助言をサービス向上につなげている	運営推進会議には、入居者、家族、民生委員、地域代表、市職員、消防署職員が参加して年6回開催している。入居者家族全員に開催案内を出し参加を促している。議事録は職員に回覧し周知に努めサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と蜜に連絡を取りボランティア祭り、ふれ愛祭りなどに参加し協力関係を築いている	市担当者とはケアサービス等について、気軽に相談できる関係を築いている。市職員による防災についての講話や消防署員による救急救命講習会等を実施して協力関係を継続している。市協賛の市民活動センター祭りにも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置、新人教育、ミーティングで研修を行なっている。必要時(やむ終えない場合)は家族の了解をとり安全第一を考えている	事業所内に「拘束委員会」を設置し、拘束をしないケアに努めている。また、積極的に外部研修を受け、職員にはミーティング時に、伝達研修をして周知を図っている。	「拘束委員会」が設置され責任者やスタッフも決まっており、研修にも参加するなど、仕組みは出来ているので、内容の充実と周知度の確認を行うなど、更に深化した支援を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修、ミーティングで話し合いを行なっている。暴力によるものばかりではなく、言葉、介護拒否などもあるので職員の資質を高めながら防止に努めている		

己	自部外	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人の権利を守る大切な制度なので職員がしっかり理解することで利用者様に活用できるように支援したい。研修を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約、改正による再契約時はご家族様に不安なく契約ができるように説明を行ない納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面談、意見箱を設置することで要望、意見を取り入れている。水分、食事量の管理、個人の好きな飲み物の準備、医療体制のありかた〈重度化による往診体制への移行など〉	運営推進会議や家族会の他、ご意見箱や日々の面会時、利用料支払い時などに意見や要望を聴いて、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場アンケートの実施、ミーティングでの意見交換をおこなうことで職員の意見や提案を受け入れやすい体制づくりに努めている	ミーティング等で意見交換や要望を聞くばかりでなく、職員の一人ひとりが、今の自分や今後の展望・思いなどを把握出来る「職員アンケート」を実施している。それをもとに意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者の報告を受けながら、直接現場での働きぶりを見ている。職員に気軽に声をかけ労をねぎらっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修〈社内〉、社外研修の奨励〈参加費補助〉を行なっている。研修後はミーティングで報告を行なう		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内、知多半島のグループホーム協議会への参加により、他施設との交流、勉強会を行ない,向上につなげている		

己	自部	外	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わることの不安、自分の居場所があるか、家族から離れるなど、さまざまな不安があり落ち着きがありません。少しでも安心して過ごせるよう寄り添う介護に努めている		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご家族とよく話し合い家族の思いを理解したうえで利用者へのサービスや支援づくりに努めている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時その場で一番良い状況は何かを考え、状況の共有と変化を敏感に把握するように心がけている。これでいいのかと常に心がけている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ここがあなたの家ですよ」と思っていただけるよう共に生活する楽しさや、いたわりを持ち、和やかな関係で支援に努めている		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携をとり、共に問題点や要望を共有して一方的な支援にならないようによく話し合っている		
20	(8)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や、美容院への外出、知人の訪問など、本人にとっては楽しみの一つであり、途切れないように支援している。電話や便りの交換も続けている	入居者は、馴染みの美容院やかかりつけ医への受診を楽しみにしている。施設内のデイサービスに行き知人に会うのも楽しみの一つであり、途切れない支援につなげている。入居者が重度化してきているが、便りの交換や、家族からの電話なども工夫し継続の支援に努めている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の気持ちを尊重しながら、お互いが孤立しないように職員の声かけや席替えを行なっている		

己	自部外	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の死亡による退所となり、本人不在のため関わりが薄くなっている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一対一で向き合うことで本人の思いや希望を見出している。帰宅願望や暴言もあるがご家族と共に本人の気持ちに寄り添う支援につとめている	日々の関わりの中で、希望や意向を聞いている。重度化が進み意思確認が困難な入居者には家族から聴いたり、素振りからくみ取って本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や本人との会話の中から〈生活暦〉把握し、サービス計画に取り入れている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活のリズムに寄り添って体調、心理状態の変化を観察している。強制することなく、出来ることを本人の役割として過ごしていただいている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当制を実施し、本人がやりたいこと、やれること、必要なことを見出しながら計画作成をおこない、3ヶ月毎の目標をたて職員が共有して支援している	居室担当制を導入し、入居者に寄り添った介護計画をたて、3カ月ごとに見直をしている。 状態が変化した場合は、医師の指導や家族とも相談をして計画を変更している。 居室担当は、年に1回変更し、支援の方向性が偏らないように配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月毎に目標達成と生活ぶりをケアカンファすることで職員が共有と連携を保ち実践、見直しにつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に合わせ今、何が必要なのか、家族と連携をとりその時のニーズに合わせ支援に努めている		

己	自部外	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間計画を作成し、外食、買い物、喫茶等の外出をすることで地域と関わりをもち、ふれあいと楽しみを持ちながら安全に暮らせるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を踏まえてかかりつけ医の受診を行なっている。重度化により往診体制へ徐々に移行している	原則として、かかりつけ医への受診は家族が対応している。入居者は外出の機会でもあり楽しみにしている。重度化が進み、往診可能な提携医への変更もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や変化はその都度、看護師に報告し、指示を受けている。緊急事態においても同様である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて病院関係者との情報交換や話し合いには参加して、家族が安心していただけるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化による往診体制と看取りについての方針の説明を行なっている。家族と常に連携をとり[出来ることは何か」を考えている	重度化から看取りまでのマニュアルを作成し、家族の希望により、看取りまでの支援をしている。事業所として、出来る限りの支援が出来るように、家族や提携医と連携をとりながら支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニアルを作成し、ミーティング等で研修を行なっている。また新人研修でも行なっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練〈夜間想定〉また救急法の研修を受け、介護者がパニックにならず、支援が出来るように心がけている。市職員の防災講話も受けている	年2回夜間想定を含めた防災訓練を、消防署の立会いのもとに実施している。その時の勤務職員の役割分担をしたり、職員の連絡網の作成している。午後10時から翌朝4時まで火の使用を控えたり、コンセントの清掃をしたりして防火への意識を高めている。市の防災課の職員による講習会を実施している。	市の防災課の職員による講習会から得られた課題や問題点を整理し、地域の方々との協力体制づくりを含めた取り組みを望む。

己 自	部 外	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた声かけを行なうことで、尊厳と親しみを持って対応している。寄り添える時間を持てるように支援している	馴れ馴れしさと親しさの区別を職員と共有しながら、声かけに配慮した支援を心がけている。トイレ介助の声掛けは一人ひとりに留意し、自室への入室の際にも必ず声かけをする等、人格の尊厳やプライバシーの確保に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いろいろな場面で選択肢を示し、自分で選べるような関係作りを行なっている。強制的ではなく本人の意思の尊重に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムがパターン化しないように心がけているが自己決定が難しくなってきている。本人の意欲低下にならないように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月ごとの散髪、毎日の服装も清潔に努めている。洗面所には化粧水なども置いてある。個人で毎日お化粧される方もある		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月10日はおたのしみ昼食会とし、利用者の要望でメニューを決め、一緒に作る楽しみや配膳、片付け等をやっている。おやつ作りもある。	材料の宅配を依頼しているので、メニューは決まっているが、体調や咀嚼能力に合わない場合は、個別に対応している。入居者の保有能力を活かして配膳や下膳をしたり、メニュー表を交代で白版に書いている。食事介助や見守りを行いながら職員も同じテーブルで一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者による食材の為栄養バランスは考慮されている。食事形態（ミキサー食、ゼリー食、お粥）にあわせた食事の提供、水分の摂取量には特に気をつけて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけを行なうが、自立の方の支援が難しい面がある。全介助の方は毎食後マウススポンジやガーゼによるケアを行ない、誤嚥防止に努めている		

己	自部外	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの能力を考慮し、定期誘導を行ない不快なく過ごせるように支援している。声かけやタイミングにも気配りを行ないトイレでの排泄に努めている	タイミングを見計らって声かけをし、トイレでの排泄支援に努めている。声かけは一人ひとりの保有能力や気分等に配慮をして、無理強いはせず気持ちよくトイレに行けるように支援している。介護度が上がっても、昼間はリハビリパンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄による影響は大きいため、特に気をつけている。排泄チェック表での体調管理、水分補給をこまめに行っている。整腸剤内服で便秘を予防している方もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴となっている。午後からの入浴時間となり、家庭と異なるので不満もあるが入浴順番で調整することもある	しょうぶ湯やゆず湯等季節感を取り入れて入浴を楽しむ工夫をしている。家庭とは違う入浴時間になじめない入居者には、適切な言葉がけや入浴順序を工夫するなどして気持ちよく入浴が出来る支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで過ごされている。気温の変化、シーツ交換、布団干しなど環境整備をおこない安眠できるように支援している。休息の変化には気をつけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診による処方の変更は通院介助報告で随時行ない、内服の管理に注意をしている。〈目的,用量の理解〉		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いや役割を持つことで、楽しみや、張り合いが持てるように支援している。また飲み物も好みに合わせて準備している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画にそって外出を行なっている。体調の状態にもよるので難しいこともある。家族との墓参り、知人との外食や買い物もある	年間外出計画や家族との外出、日常的には事業所の敷地内の戸外でお茶を飲んだり、日向ぼっこをしたり、参拝をかねて神社へ出かけたりしている。入居者の孤立化を避けるためにも、気分転換に散歩に誘うなど一人ひとりに応じた支援に心がけている。	

己	自部	外	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はむずかしくなっている。バザーや買い物ツアーに出かけた時は自分で管理して使えるように支援している		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思で電話をかけることは少ないが先方よりの電話による対応が多い。知人や家族に便りを出すこともある		
52	(19)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備による安全と清潔に努め、心地よく過ごせるように努めている。空気の入れ替え、外観の眺め、陽射しにも気をつけている。室内には花や観葉植物を置き、また壁画作りも行ない　季節感をだしている	居間は広い南向きの窓で明るく、気持ちよく太陽光が入る。車いす使用の入居者が増えてきたので、障害となる廊下の観葉植物の鉢等障害となるものを取り除いた。トイレの臭等にも気をつけている。入居者とともに作成した季節感のある作品が飾られ、その中で入居者は職員と歓談しながらゆったりと過ごしている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間ではあるが、ソファを設置し自由に気の合うもの同士が過ごせる環境を提供している		
54	(20)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた生活の延長になるように家具や仏壇を持参されて、本人の希望通り配置している。生活スタイルもベッド、畳の上に布団など本人に合わせて行なっている	使い慣れた家具や小物を持参し、自分らしい居心地の良い空間づくりをしている。希望により、ベッドにしたり、畳を敷いた部屋で布団等にも対応している。縫物が好きな入居者は、その作品を自室に飾っている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りに努め、本人が場所、居室にとまどうことがないように支援している。重度化により今後安全化が重要となる		